

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	慶應義塾大学				
取 組 名 称	メディカルプロフェッショナリズム教育の推進				
取組学部等	医学部				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A21123	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申 請 の 分 類	職業教育	FD・SD		その他	
キ ー ワ ー ド	Medical Professionalism, 模擬患者 (SP), 自主的学習, プライマリーケア, Professionalism 評価スケール				

<選定理由>

本取組は、医療人として要求されるすべてのものを幅広く包含し、かつバランスの取れた医療人養成を考えるものであり、日本社会で求められる理想の医学教育を目指すプログラムとして高く評価できる。特に、日本の教育システムに合った医療プロフェッショナリズムを意識させ、質の高い医学教育プログラムを確立実践しようとする目的は大きな意義を有するといえる。内容的には、5つのコアとなる取組が掲げられているが、その中でもプロフェッショナリズムの到達度を客観的に評価する新たな概念による評価スケールの作成プロジェクトは注目される。

ただし、先進医療だけでなく、地域医療にも積極的に貢献することを目指しているが、そのためには、今後さらに地方の関連病院を用いた教育が必要である。また、現状では包括的な教育改革の企画としての提案で留まっている傾向があり、個々の提案事項について、その成果が期待できるかどうかについて不明瞭な部分がある。改善を要する点がいくつか見られるが、望まれる医師の能力・資質等の要素を分析評価し、優れた医師を養成しようとする本取組が、他大学から参考とされるようなモデルとなるよう、その発展を期待する。

取組の概要【1ページ以内】

今日、種々の医療問題を通じて、医療に対し厳しい目が向けられている状況がある。医学教育の質向上と卒業時の医学生レベルの担保に、社会の注目が集まっている。海外でも事情は同じであり、従来の医学知識、医学手技教育に加え、患者さん中心の医療を行うことを医学部生に早くから意識させ、生命倫理や医療に関する法律の理解と遵守、医師としての義務の遂行、ヒューマンズムの実践、生涯学習の態度の確立など、医療人として要求される全てに幅広く触れ、かつバランスのとれた医療人養成を第一に考える、Medical Professionalism教育を模索する流れがある。

慶應義塾大学医学部では、「医学教育統轄センター」が中心となり、先進的な医学教育モデルの構築にこれまで取り組んできた。

医学部・医学教育統轄センター内においても、Medical Professionalism教育の充実について議論が重ねられ、特に我が国の医学部教育に適したカリキュラムの構築、実践が焦眉の急であるとの考えで一致している。

これまで強調されてきた医学知識、臨床能力教育に加え、コミュニケーションスキル、生命倫理、法的な知識と理解、さらにはヒューマンズム、生涯にわたる医療向上の自主的取組、患者さんへの義務を果たす態度、患者さん中心主義を身につけさせる教育など、従来必ずしも十分に教育時間が割かれてこなかった方面の教育を幅広く展開して、最終的にバランスのとれた医師養成にも力点をおく医学教育は今後極めて重要であり、こうした問題意識のもと新しい医学教育を構築することは、質の高い医師の養成に欠くべからざるものであると考える。

本取組では、Medical Professionalism教育への世界的な流れを背景に、日本における新たに Medical Professionを育成する医学教育について、必要となる教育部分を見直し、充実、実践することを目指す。

具体的には、本取組では以下の5つのコアプロジェクトを行う。

- (1) 医の原則や最近の医療を巡る諸問題を小グループで討論させ、理解し身に付けさせるプロジェクト
- (2) 模擬患者 (SP)とシミュレータ併用した新たなシミュレーション教育プロジェクト
- (3) 地域医療へ積極的に参加させ、プライマリーケアを理解させるプロジェクト
- (4) 自主的な学習意欲を高め、問題解決能力を向上させるプロジェクト
- (5) Medical Professionalismの到達度を客観的に評価する評価スケールの作成プロジェクト

特にProfessionalismの教育には、バランスのとれた教育カリキュラムを構成し、生涯にわたって医学発展に寄与する医師として、自ら積極的に学習し続け、問題を発見解決する能力を涵養する教育の展開が必須である。これは、従来の一方的な講義形式では目的を達成できない。ミニレクチャーで基本事項を理解させながら、小グループによる積極的議論とインターネットや医学教材データベースにアクセスできるイントラネットを使った、自主的学習を中心とした質の高い医学教育プログラムが必要となる。

本取組で目指す教育プログラムは、欧米の医学教育のグローバル・スタンダードを意識し、生涯にわたり活躍する、Medical Professionを先導する医師を育成するための基礎をなすプログラムである。そこで本取組では、Medical Professionを意識させ学習を進めさせるため、我が国におけるMedical Professionalismとは何かについて、要件を定義し、Professionalism評価スケールを作成して明示することを試みる。